

めざせ！ 苗場山麓ジオパーク

Vol.
2

振興協議会だより

〔発行日〕平成26年1月17日

〔発行〕めざせ！苗場山麓ジオパーク推進準備室

下仁田ジオパークの専門員をお招きしました

来たる平成25年12月11日、下仁田ジオパークの専門員である関谷友彦氏に来町頂き、苗場山麓ジオパークのエリアを見て回りました。

下仁田ジオパークは、2年前に日本ジオパークに認定された群馬県下仁田町をエリアとしたジオパークです。関谷氏は、今年度のジオパーク認定審査に関わり、日本ジオパークネットワーク（以下JGNと略す。）の事務局からの紹介で、ご指導に来て頂きました。

農と縄文の体験実習館にて地形ジオラマと展示を見ながら概要を説明し、その後、実際に河岸段丘や龍ヶ窪、石落とし、布岩山、のよさの里からの鳥甲山などを見学視察してもらいました。

その中で、本地域の風穴には、自然環境としての風穴や、産業遺産としての風穴、生活に根ざした貯蔵施設としての風穴など、多様性があることにも注目されました。

その他、下記のようなことについてご指導がありました。

- ①河岸段丘や苗場火山がなぜここにあるか、研究者と一緒に考える必要がある。
- ②学校や研究者を受け入れる体制を作るのも一つの手。
- ③地域の人たちとともに考えることが必要。
- ④順路、訪れる場所、はじめに訪れる場所でどういう情報が得られるか。などを考慮しながらモデルルートやビジター施設の整備を行う必要がある。
- ⑤秋山郷のガイドさんがいればその人たちにジオを少し覚えてもらえばジオガイドになる。
- ⑥看板やパンフの作成などは、市民の会、専門家、観光分野の職員、ジオパーク推進室などが協議できる場があってみんなが納得できるものを作るのが望ましい。
- ⑦ジオパークの主役は住民。
- ⑧ジオパークの理解を深め、住民（ガイド）の方が地域をより好きになることが大事、それが持続的な地域の活性化にもつながる。
- ⑨JGNと深く携わる部署が主体となる必要があり、ほかの地域の試行錯誤を聞いて苗場山麓地域でやりやすい方法を模索する必要がある。
- ⑩JGNは認定地域の人的支援、金銭的支援をもって成立しているNPOであるため、事務局の運営方針などを行政内で理解し、予算立てをする必要がある。

この他、下仁田ジオパークの申請準備、現地審査の状況、現在の取り組みや認定に向けた審査のポイントについてもご教示頂きました。



龍ヶ窪



石落とし



ジオパークガイド養成講座

ジオパークは、この地域の「宝もの」である貴重な地形や地質、動植物、歴史文化を保全しながら教育・防災活動や観光に活かしていこうというものです。

子どもたちや観光客にこの「宝もの」のすばらしさを知ってもらうためには、この地域に暮らし気候風土や四季折々の美しさを知っている住民の皆さんがガイドをするのが一番です。

今後、ふるさと案内人の皆さんと連携してガイドの養成を行っていきます。雪どけ後は、実際に現地を観察しながら何回かにわたり講座を開催していき、全講座修了後にはガイド証をお渡しする予定です。



第1回は、平成26年1月20日、その後2週間に1回のペースで開催する予定です。

第1回	1月20日(月)	ジオパークとは？ 苗場山麓ジオパーク構想について
第2回	2月5日(水)	火山活動について
第3回	2月19日(水)	河岸段丘について
第4回	3月5日(水)	自然環境と人間について
第5回	3月19日(水)	段丘に展開した雪国縄文文化について
第6回	4月以降	ジオサイト現地観察・実地講座

COLUMN

大地の息吹と
現代を結ぶ

世界に誇る「雪」① ～なぜ雪が降るのか～

「雪」は苗場山麓ジオパークを特徴づける要素の1つです。

それは、津南町・栄村が、日本でも有数の豪雪地帯だからです。日本一といっても良いでしょう。実は「世界一」と言っても良いのです。森宮野原駅では積雪7.85mの記録があります。

津南町役場の側には、北緯37度のラインが走っています。このラインに沿って世界中を見てみると、ソウル、サンフランシスコ、ワシントン、アテネなどの都市があります。

このような世界の都市と比べると、圧倒的に多くの雪が降っています。

さらに、その量年間3～4m、そんな環境の中、1万人以上の人口がある地域は、世界を見渡してみてもどこにもありません。ロシアなどが多く降るイメージがありますが、年間50cmほどの積雪しかありません。

なぜ、雪が降るのでしょうか？ それは、日本海が存在が大きいのです。冬は、北からの冷たい空気が大陸から流れてきます。そこに、対馬暖流によって日本海からたくさんの水蒸気があがることで、湿った空気が作



られます。この湿った空気は雲を作り、氷となります。そして標高の高い山にぶつかり、雪となって舞い降りてきます。この気候と地形環境によって、多くの雪が降るのです。

およそ8,000年前から暖流が日本海に流れ込み、現在の雪の降る条件となったと考えられています。それ以前はそれほど多くの雪は降らず、より寒冷な気候でした。

世界的に見ても「雪」が特徴となっている津南町・栄村は「雪」を武器にすることを考えていく必要があるのではないのでしょうか。

めざせ！ 苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

河岸段丘



所在地 津南町

種別 地質

本河岸段丘は、大地が持ち上がる力と中津川の削る・運ぶ・溜める力によって作り出され、環境変化も関係し、およそ 43 万年かけて現在の姿が出来上がりました。新旧たくさんの段丘が階段のように一望できる日本有数の河岸段丘です。

平坦な段丘面は、かつての中津川の川底であり、扇状地であった場所です。

火山灰から、段丘ができた年代や当時の環境を知ることができ、段丘面に降った雪や雨が地面に浸みこみ、下の段丘面の境から湧き出し人々の生活や農業などに密接に関連しています。

古い段丘（上）から、谷上面・米原Ⅰ面・米原Ⅱ面・卯ノ木面・朴ノ木坂面・貝坂面・正面面・本ノ木面・大割野Ⅰ面・大割野Ⅱ面と呼ばれ一番新しい大割野Ⅱ面の形成は、約 1 万年前とされています。

信濃川底から最上面の高低差は約 650 m です。

布岩山



所在地 栄村屋敷

種別 地質

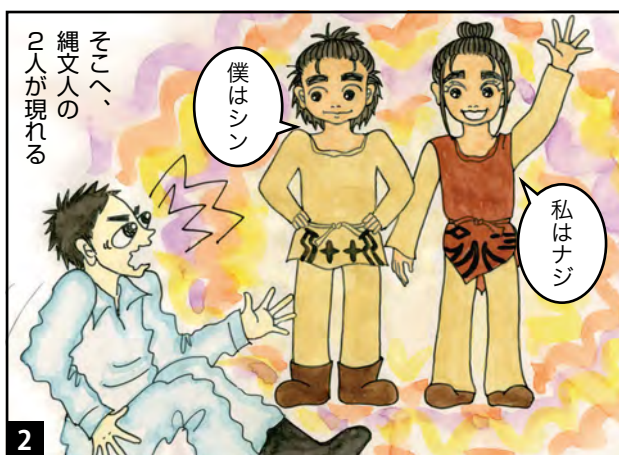
屋敷集落の上方に反物を幾重にも垂らしたように見える岩壁が「布岩山」です。

ほぼ直立する柱状節理は大きく、その幅は大きいところで 1.5m 以上あります。

また、よく観察すると、直立する柱状節理の上部には横位の板状節理が形成されています。この節理の入る方向は、熱が逃げる方向を示しています。

この布岩山岩は、鳥甲山の火山活動で形成されたもので安山岩に分類される岩石です。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。



今後のスケジュール

- 平成 26 年 1 月 20 日 ジオパークガイド養成講座 第 1 回
 1 月 22 日 なじょもん塾 第 1 回
 1 月 29 日 振興協議会部会
 1 月 31 日 上村会長、島田副会長、桑原津南町教育長による糸魚川ジオパーク訪問
 2 月中旬 振興協議会と学術委員会の共同開催
 * 苗場山麓ジオパークの認定に向けた申請書を鋭意制作中

PICK UP!

『なじょもん塾』開講

苗場山麓ジオパーク構想を基軸として自然環境及び歴史環境を背景とした新しい魅力ある町づくりを考える場として開催します。

積極的に町づくりに参加している団体や個人の交流・意見交換の場とすると同時に 10 年後、20 年後を見通し、温故知新から温故創生の意気込みを醸成し、若人が責任ある言動を鍛える学び舎として『なじょもん塾』を開塾します。

月 1 回のペースで、毎回様々な分野で活動している方を講師に迎え、講演とディスカッションの参加型ワークショップです。

第 1 回目は、雪国観光圏ブランドマネージャーでもある藤野健氏を講師に迎え、ブランドとは何か？「雪」をテーマにした町づくりの可能性などをディスカッションします。